

### **第3章 青森県が目指す環境の将来像及び基本目標**

### 第3章 青森県が目指す環境の将来像及び基本目標

#### 【青森県が目指す環境の将来像】

#### 循環と共生による持続可能な地域社会

この計画は、本県の健全で恵み豊かな環境を損なうことなく維持しつつ、経済の発展を図りながら、より良い地域社会の創造を目指すものです。

このため、資源や炭素などの物質の適切な循環を基調とし、自然と人との共生が確保される社会の形成を図る観点から、概ね20年後の2030年までに実現するものとして、青森県が目指す環境の将来像を「**循環と共生による持続可能な地域社会**」とし、「循環」と「共生」、そして「持続可能な地域社会」の考え方を次のとおり示します。

#### 【循環】

環境を構成する重要な要素である大気、水などの物質は、古来から自然の浄化作用を通じて適切に循環することによって、私たちに様々な恵みとうるおいをもたらしてきました。

しかし、私たちは、20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムの中で、多くの鉱物や石油などの資源を浪費し、大気汚染や水質汚濁、廃棄物の不適正処理、化石エネルギーの大量消費により環境に大きな負荷を与え続けました。

その結果、自然の物質循環機能が損なわれたり、限りある天然資源の枯渇の懸念が生じているほか、二酸化炭素の吸収・排出の均衡が崩れたために大規模な気候変動の危機にさらされているなど、身近な場所から地球規模に至るまで様々な環境問題が引き起こされています。

このような状況は、大気や水、土など、私たちの生活に恵みやうるおい、やすらぎをもたらす基盤となる環境の豊かさが失われることにつながるとともに、天然資源の枯渇により、社会経済の持続的発展に支障を来すおそれがあります。

幸いなことに、本県には豊かな自然環境が存在していることから、私たちは、自然の物質循環機能を保全、再生するとともに、低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルと廃棄物の3R（リデュース・リユース・リサイクル）が確立された低炭素・循環型社会を構築し、二酸化炭素も含め、環境を構成するあらゆる物質が健全に循環する「循環」を基調とした社会を創造していく必要があります。

#### 【共生】

本県と秋田県にまたがる世界自然遺産白神山地は、原生的なブナ天然林が分布しており、多種多様な動植物が生息・生育しています。

なかでも、核心地域では、原生的な自然が最も良く保たれており、人の行為による影響を受けることなく、生物の営みが繰り返されてきました。

また、白神山地などの原生的な自然だけでなく、里地里山<sup>\*1</sup>などの二次的自然も人間の適切な働きかけを通じて、現在まで引き継がれてきたほか、良質な農林水産物の生産の基盤となる大気や水、土なども良好な状態で保全されてきました。

しかし、私たちは、様々な形で環境に多くの負荷を与え、このままでは、生物の生息・生育環境や地域の存続基盤に大きな影響を及ぼすことも懸念されます。

四季折々の自然が豊かで美しく、水資源が豊富な本県の環境は、青森らしさを象徴するものであり、これを揺るぎない形で次世代に引き継いでいくとともに、豊かな自然を保全しながら、自然の恵みを楽しむため、自然との共生の関係を築いていく必要があります。

また、私たちと環境との良好な共生関係を次世代に引き継ぐことは、環境という空間の共有を通じて、次世代と共生することにもつながるものです。

## 【持続可能な地域社会】

現在を生きる私たちは、本県の恵み豊かな環境の中で日々の暮らしを送り、そして地域社会の発展を目指して様々な経済社会活動を営んでいますが、この恵み豊かな環境は、先人達から引き継いできたものであり、私たちもまた、本県の豊かな環境を損なうことなく次世代に確実に継承していく責任を有しています。

そのためには、次世代が享受する経済的及び社会的利益を損なわない形で私たち現在の世代が環境を利用していく、持続可能性を有する社会の構築が必要です。

私たちは、「循環」と「共生」の実現を通じて、本県の健全で恵み豊かな環境を損なうことなく維持しつつ、持続的に発展し、成長する地域社会の創造を目指していくものです。

**青森県が目指す環境の将来像「循環と共生による持続可能な地域社会」の実現に向けて環境の保全及び創造に関する施策を展開するに当たっては、次の3点を基本目標とします。**

### 【基本目標】

- (1) 恵み豊かなあおもりの環境を次代につなぐ低炭素・循環型社会、自然共生社会づくり
- (2) あおもりの優れた自然と豊富な再生可能エネルギーの活用による日本の低炭素・循環型社会、自然共生社会づくりへの貢献
- (3) 恵み豊かなあおもりの環境を守り、創る人財の育成と仕組みづくり

※1 里地里山…奥山と都市の中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原等で構成される地域概念。農林業などにもなう、さまざまな人間の働きかけを通じてその自然環境が形成・維持されてきた。

生物多様性の保全上重要な役割を担っており、都市周辺の身近な自然とのふれあいの場としても欠かせない地域であるが、近年、農山村では過疎化等による管理放棄、都市近郊では開発等の土地利用転換が進むなど、里地里山の消失や質の低下が顕在化している。



こどもエコクラブによる「トランスヒートコンテナシステム」の見学